

## 第33期第6回理事会議事録

日 時：2006年3月8日（水）13時00分～14時30分

会 場：東京管区気象台会議室（気象庁8階）

出席者：廣田，古川，磯部，伊藤，岩崎，木田，多田，  
田中，中村（健），新野，板東，藤部，山崎，  
以上13名。

書面参加：宇平，里村，津田，藤村，松村，宮原，湯  
田，以上7名

その他の出席者：島村，渡辺（事務局）

### 議 事

#### 1. 2006年度総会資料について

2005年度の事業報告と2006年度の事業計画案及び  
予算案について検討した。事業計画について，大会  
受付のオンライン化を掲載すべきとの意見が出た。  
また125周年記念行事は2007年度の春季大会なので  
来年度の事業計画に記載はないが，記念出版は2007  
年1月から始まるとの説明があった。

#### 2. 125周年記念行事実行委員会の設立について

現在の準備委員会を平成18年4月から実行委員会  
に移行することを常任理事会で了承した旨が報告さ  
れた。準備委員会委員長の古川理事が，引き続き実  
行委員会の委員長を務める。

#### 3. 日本学術会議の最近の動向について

木田理事から，日本学術会議の分科会や小委員会  
の組織化の状況について報告があり，分野別専門委  
員会としての地球惑星科学委員会（7名）に気象関  
連の委員がないことに危機感を持っているとの説  
明があった。また IUGG（国際測地学・地球物理学  
連合）小委員会の委員に東京大学の中島映至教授を  
推薦したことが報告された。

#### 4. 各支部からの報告

各支部の活動状況や日頃の活動で問題と感してい  
ることなどが報告された。

北海道支部から，最近の研究会の実施状況や予定  
について報告があった。また2007年度秋季大会（札幌）

に合わせて気象講演会を計画しているが，秋の  
講演会の実施については，予算確保や講演者選出等  
の実行計画を策定する段階で苦労が多いとの説明が  
あった。

東北支部から支部交付金が増えたことに感謝の意  
が示された。また研究会と講演会を1回ずつ開催し  
たことが報告され，その中で，大学と気象台との役  
割分担，特に研究レベルの協力を如何に進めるかに  
ついて課題が多いとの説明があった。

中部支部から，今年度の夏季講座は実験がテーマ  
だったこと，また伊勢湾台風からほぼ50年に当たる  
2006年度秋季大会のシンポジウムを，台風をテーマ  
に行う予定であることが報告された。更に大会開催  
の在り方に関し，年1回化や秋を分科会方式にする  
等の提案を含めた問題提起があった。これについては  
今後も議論を続け，その結果を第34期の理事会に  
引き継ぐことを確認した。

九州支部から事務の効率化について報告があり，  
その中で，支部選挙は全員投票で事務が多いので  
制度の見直しを検討したいとの説明があった。また  
長崎で行われた研究発表会で気象台から数題の講演  
があるなど，気象台の活動が盛んになっていること  
が報告された。

最後に廣田理事長から，第34期役員選挙の投票が  
行われていることに触れて，通常会員が有する投票  
権，議決権について，権利は責任を伴うものなので，  
日頃から各支部の通常会員の意識を高めるようにと  
の要請があった。

平成18年4月6日

社団法人日本気象学会

議 長 多田英夫

署名人 板東恭子

署名人 古川武彦